

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200058		
法人名	有限会社大矢野会		
事業所名	グループホームおおやの		
所在地	熊本県上天草市大矢野町上1520番地8		
自己評価作成日	令和5年12月13日	評価結果市町村受理日	令和6年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和6年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋でホールや居室の窓は障子になっており、和の雰囲気造りになっています。ホーム内は、談話室と台所を一体化することにより、入居者の状態を把握することができ、すぐに対応できるようにしています。隣接する医院との医療連携により、入居者及び家族に安心していただける環境・体制づくりに努めています。また、家族との関わりを大切にし、毎月担当者からの近況報告並びにホーム広報を送付しています。
2回/年の家族会(開所祝・敬老会)は、運営推進会議と合同にて開催しており、外部との交流に努め、毎回多数のご家族の皆様に参加協力をいただいています。現在、感染症の流行により、書面にての開催となっておりますが、毎回ご家族、運営委員の皆様より多数のご意見、ご協力を頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年9月より新体制でスタートしたホームでは、理念や馴染みの職員によるケア、手作り食の提供が継続され入居者も穏やかな日常を過ごされている。天草の玄関口上天草の県道沿い近くにあり、以前は地域の駅伝大会の応援に出たり、近隣スーパーへ入居者の目利きを生かした海産物などの食材をはじめとした買い物外出など入居者の楽しみであったが、コロナ感染症への対応からコロナ5類移行後も入居者の外出の制限が継続されている。そんな中外出に代わる楽しみ事として、ホーム内に手づくりの「おおやの神社」やおみくじなど職員のアイデアや工夫は外出が制限されてすぐから取り組まれている。今後は感染症の状況を見ながら自宅への帰省や地域への外出に取り組みたいとしており、先ずは敷地内に咲く桜の開花を入居者も職員も心待ちにしている。今後も地域の中で入居者や家族の思いに応えるホームとして新たな年月を重ねていかれることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの再編成があり、新体制でも引き続き理念に基づいたケアの実践が行えるよう再確認した。運営推進会議、家族会においても年度初めに毎年報告をしている。敬う気持ちを忘れずに接しますの理念の基、言葉遣いについてもミーティング時研修を実施した。	昨年9月より新体制(1ユニット)となり、入居者にとってもユニットの移動により生活空間の違いや入居者同士の関係性などに戸惑われたこともあったようである。その中で職員は敬いの気持ちをもって入居者に接し、従来の生活を取り戻し安心して暮らしてもらえるよう努めている。	新たな体制でのスタートであり、理念に沿った年及び月目標などを設定することで振り返りの機会を持つことも必要と思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響により現在もまだボランティアの受け入れ等もできていない状況である。今年度久しぶりに敷地内にて地元の祭りの見学を実施する事ができ、交流出来た。退所された方のご家族が家でとれた野菜等を持参して頂き交流継続している。	コロナ感染症の5類移行、家族との面会には少しずつ形を変え入居者の様子を見てもらうようにしているが、地域行事への直接的な参加やボランティアの受け入れは控えている。ただ久しぶりに開かれた地元神社の祭りには出し物(子ども神輿や獅子舞)を笑顔で観覧されている。学生の体験学習なども再開には至っていないが、管理者や職員が地元高校に出向き介護技術(移乗)の研修会にサポーターとして活躍している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みや見学に来られた際等、ご家族の相談、アドバイスを行っている。上天草高校で開催されている地域介護力アッププロジェクトにサポーターとして参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症拡大の為、運営推進会議の対面開催の中止や延期など困難の中、1回ではあるが家族参加で開催することができた。書面開催時、皆様より多数のご意見等いただきサービスの向上につなげることができた。	運営推進会議には行政や地域代表者、家族等が参加している。昨年は直接開催が1回と他は書面送付による報告としている。会議前には意見書を送付して参加者からの意見や要望を募り、次回会議の席で内容を報告し質問等に答えている。身体拘束適正化委員会を同時開催しており、参加者と共に拘束や虐待、事故や権利擁護等について総合的に意見交換を行っている。	現在は意見書を活用しながら会議を運営している。対面開催での人の顔や声を間近に見ての会議は行政、地域とのパイプ役としての本来の意義も含まれるものかと思われる。切り替えの判断は難しいものとするが状況をみて対応されることを期待したい。また管理者が関係する地元高校の福祉科の担当者などにもメンバーとして参加してもらおうような働きかけが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席や家族会への参加も促している。書類等直接窓口へ提出に行くようしており、その際意見、情報交換を行うようになっている。	行政から運営推進会議に参加された際にはホームの現状を発信するとともに、市の動向を尋ねようとしている。体制の移行に伴う相談事や手続きなどに管理者が出向く他、介護保険認定調査には職員が立ち会い、ベッド中心の生活になられても直接対面してもらうようになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の所在確認常に行い、夜間以外の施錠はしないようにし、自由に出入りができる。身体拘束に関する研修会も行い、スタッフ間の理解も少しずつ高まっている。身体拘束、事故防止、虐待防止、権利擁護等それぞれ関係性あり、総合的に検討し取り組んでいる。今後も環境整備、適切なケアの方法についてスタッフにて検討し、ご家族とも話し合いながら一緒に取り組んでいきたい。	身体拘束や虐待について研修会を開く際には担当職員が資料集めから関わり、各自が責任をもってあたるようにしている。また同時に仕事に対する深い専門性や教養を身に着けることも必要であるとしている。入居者との日常会話は馴染みのある方言で対応し、センサーマットなどは使用しておらず、職員の気付きで転倒などのリスクに注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティング時などに再確認を行い、日頃のケアが虐待に繋がらないか振り返った。日々の仕事の中で、ニュースや新聞の記事を基に意見交換を行うようしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての周知に関し学ぶ機会が少なくなってしまう、今後研修参加など検討したい。以前は成年後見制度を利用されている方が入所されていたが、現在はいらっしゃらない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、管理者で説明を行っている。一度自宅に持ち帰っていただき、疑問等随時説明を行っている。改定等の際は、家族会や面会時に説明を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で担当者・スタッフ等とゆっくり話す機会を設け、また、家族会・運営推進会議を合同開催し、外部の方も含め意見交換できる場を設けている。数年は、新型コロナウイルスの影響により、対面開催できず、書面にて意見書の提出をお願いし、毎回会議にて報告を行っている。	家族の意見や要望は普段の面会や家族会等で収集するようにしている。入居者の様子は広報紙「おおやの」で発信しているが、日々の何気ない会話や広報誌で伝えきれない近況を口頭や近況報告にて知らせるようにしている。入居者の要望は普段の関わりから引き出し、外出や食べ物の希望を口にされるようである。「あれが食べたいから買ってきて！」などの要望にはおやつの時間に提供して楽しんでもらうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを月1回開き、意見を聞く場を設け反映できるよう努めている。	毎月第3木曜日を職員会議の日として入居者の現状把握や職員意見を運営に反映するようにしている。個人面談の機会は設けていないものの何かあれば管理者へ個別に話をされるようである。希望休や有休取得にも職員の意向が反映されている。	体制の変更は入居者はもとより職員にとっても不安なスタートであったと思われる。その中で入居者との新たな生活に力を注いでいる。4年ぶりに地域行事に参加し、イベント食ばかりでなく日々の手作り食にも工夫を凝らすなどまずはできる事から始めており、継続した取組が期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で把握に努め、職場環境等意見交換を行い見直しや整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修にて各自担当の利用者について検討し、ニーズの把握とケアの方法について学ぶことができ、全体で共有することができた。研修会や資格取得等職員へ知らせ、希望がある場合、勤務調整し、参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会に加入しており、研修会などを通し交流を行っている。上天草高校プロジェクトにも参加し、他事業所とも交流を行っている。新型コロナウイルスの影響により、交流の機会が減少していたが、徐々に参加できるようになってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人の気持ちに耳を傾けながら、今までの暮らし方や経過を理解し信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護に対する負担などを十分に理解し、安心してホームに任せられるような信頼関係を築けるように努力している。不安な事、気になる事があればいつでも連絡してもらうよう声かけしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズを十分に理解した上で必要とするサービスの説明や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気作りを大切にし、本人の意思を尊重した介護をこころがけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告にて状態を伝え、また面会時にも随時状態の報告を行っている。現在も窓越しでの面会だが、できる限りゆっくりできる環境づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在の状況では電話での会話と、窓越しでの面会にて対応しているが、状況の変化に合わせ対応できるよう検討している。	入居者がこれまで培ってきた馴染みの習慣や、こだわりなどが発揮できる場を提供できるようにしている。早朝から新聞を読んだり、生け花の得意な方が正月などの祝いの日に花を生けたり、馴染みである芋の茎の皮むき作業や洗濯たたみが始まると一斉に手伝われるなど馴染みの関わりを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室を行き来されたり、食事時には声を掛け合ったり、利用者同士の交流みられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も時々訪問して頂く家族もあり、交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスにて検討し、できるだけ本人の思いに添えるようなケアの検討を行っている。会話やかかわりの中で思いや意向を把握するよう努めている。	カンファレンスで個々の入居者の現状を共有して、職員の新たな気づきや意見を検討するようにしている。職員は入居者との日々の関わりから聞かれた思いをもとにプラン作成に提案している。中には意思表示の難しい入居者もおられ、これまでの生活ぶりや家族からの情報をもとに本人の意向に沿う形で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員のほとんどが地元出身また居住者であり、本人や家族とのコミュニケーションの中で把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや経過記録、会話などのコミュニケーションの中で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画ができるようスタッフ間でカンファレンスを開き現状の把握を行っている。家族にも現状を説明し意見を聴くようにしている。	本人・家族の意向を尊重しながらカンファレンスでの職員意見を反映したプランを作成している。ホームでは家族の意向があれば最期の支援までを行っており、プランも看取り専用で切り替えて対応している。入居者が安心して過ごすための居室等の空間作りや衛生的な支援、訪室の際には必ず声掛けをすることなど個々に必要な対応を心掛けている。	隣接する協力医との連携が看取り支援までを支えている。コロナ感染症やインフルエンザ等の終息には至っていないが、今後状況を見て戸外活動などを通して更なる個別支援の充実が期待される場所である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の経過記録に加え、ひやりハットなどでスタッフの気づきなどを共有し、ミーティング時に全員で再確認を行い、再発防止などに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに対応できるようケアの方針を考え、必要に応じ家族の協力もお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り神輿の訪問があり、今年是一定の距離をとりながら外での観覧ができた。またホーム内でも神輿とはっぴを着ていただき気分を味わってもらった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接医院が主なかかりつけ医になっている。24時間緊急対応、訪問看護の体制もあり医療に関する相談もできる。専門医受診はご家族に協力をお願いしている。歯科、眼科はホームへの訪問診療体制あり。	主なかかりつけ医は隣接する医療機関による月2回の訪問診療や状況に応じ往診が行われている。また週1回同医療機関の訪問看護が来所し、健康チェックや点滴などの必要な処置がなされている。専門医については家族の対応を依頼し、歯科や眼科受診が必要な場合には、訪問診療で対応されている。職員は日頃から入居者の健康管理に努め、体重測定や毎食後の歯磨きの支援では、個々に応じて歯ブラシやスポンジブラシの検討も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェックで体調を把握し、異常がみられる場合にはすぐに病院へ連絡できる体制が整っている。訪問看護時相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院との情報交換を行い、必要に応じてカンファレンスにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には主治医を含め家族と十分に話し合いを行い、スタッフ全員でケア方針を共有し、家族や本人の希望に添えるように努力している。新型コロナウイルスの影響により、ご家族一緒に最後の時間をゆっくり過ごしていただくことができない状況である。窓越しでいつでも面会できるよう居室の移動を行い、状況に応じ都度対応を検討している。	本人や家族の意向を確認し、主治医との連携、職員間でのケア方針を共有し、ホームに出来得る終末期支援に努めている。入居時に看取りに関する意思確認書の説明を行い、状態に応じてその都度意向を聞き取っている。看取り期は面会や夜間対応などの点から家族の了承を得て居室の移動も行われている。隣接する協力医療機関の存在は心強く、この1年で看取り支援が行われた際も主治医による夜間対応がなされている。看取り支援後はミーティングの中で振り返りの機会を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡シートを作成し、急変などに情報の共有ができるようにしている。24時間医療連携により、相談や指示をもらえる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて避難経路や災害時の避難手順の確認を行っている。また、非常食や水など準備し、災害に備えている。運営推進会議や家族会等にて、地域やご家族へ協力をお願いしている。	今年度は6月・12月には消防署立ち会いのもと避難誘導訓練を実施し、12月には避難訓練後水消火器にて消火訓練を実施している。安全チェックは安全対策の担当者を中心に定期的に行っており、電子レンジの使用については、消防署よりアドバイスを受けている。食備蓄はリストをもとに事務所と食堂に、水は倉庫に確保しており、裏玄関には大型バケツに水を溜め、非常時用としている。また感染症用の備品も揃えている。BCPIについては作成が済み、職員へも報告されている。	訓練には地域や家族の協力が可能な方には依頼しており、今後も運営推進会議なども活用しながら協力体制の構築が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は理解しやすい地元の方言だが、丁寧語であることに気を付け、敬う気持ちを込めた声掛けができるように心掛けている。言葉遣いについてミーティング時研修を実施。	入居者への言葉遣いや対応については、ミーティングや研修会の中で共有を図っている。方言は入居者にとって馴染みでわかりやすいものであるが、馴れ合いにならないよう心掛けている。呼称は苗字や同姓の場合は下の名前でも対応している。主に入浴支援での同性介助については、要望に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を把握し、本人の意思を尊重するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事以外は特に日程は決めておらず、自由に過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を確認しながら、その人にあった衣類選びを行っている。また、意思の決定が難しい方には職員がえらび、いつも同じような服にならないような配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後のゴミをごみ入れにまとめてくれたり、利用者から「何かししましょうか」と声を掛けてくださる。ごみ入れの箱を職員と一緒に作ったり、食後自分の食器を下げたり手伝ってもらっている。誕生日には、何を食べたいか本人の意向を確認したり、好まれるメニューにて対応している。本人の体調や趣向に合わせて代替え等準備している。	日々の食事は専任者2名を中心に献立作成や調理を行っている。誕生日は本人の好みを聞いており、その日に祝っている。巻きずしやちらし寿司、混ぜご飯等の要望が多いようである。食材は地域スーパーからの配達や、買い出し、家族等からの差し入れ野菜の他、ホームで育てた野菜(ゴーヤなど)も活用し、季節を味わうことが出来ている。食形態も個々の嚥下力に応じ、苦手なものには代替え食で提供している。入居者が台所に立つ機会は持たれていないが、芋づるやつわの皮むき、下膳などできる事に取り組まれている。	ホーム職員による日々の食事提供は継続され、職員も同じものを摂ることで思いを共有できている。「手作りの温かい料理は楽しみで、元気が出ます！」等職員の声が聞かれた。入居者にとっても楽しい食事支援の継続が期待される。また感染症の状況をみながら、以前のように入居者と食材購入が出来る日が待たれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量のチェックを行い、食事量の少なくなった方にはおやつなどで、本人の好まれるものを提供し補ったり、刻みやミキサーなどの形状の工夫を検討している。食事以外にも、10時、3時等時間を見て提供したり、日中や夜間も居室へ準備し自分のタイミングで水分摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所へ誘導を行い、口腔ケアを促している。また体調不良などで洗面所へ行けない方は、居室でのうがいに対応している。口腔ケアの用品も状態に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用されている方でも排泄の訴えがある場合にはポータブルトイレやトイレ誘導などで排泄が自立できるように援助している。また、時間をみながらトイレ声かけ誘導を行っている。	時間帯を見ながら声掛けや誘導、自立でトイレに行かれる方など個々の状況に応じて必要な支援に努めている。排泄用品も尿取りを併用しながらリハビリパンツや布パンツで過ごされている。オムツを使用されている方も、訴えがあればポータブルトイレやトイレへの誘導が行われている。夜間のみ使用される方のポータブルトイレはその都度廃棄し、清潔に管理している。排泄用品は適切なものを検討し、ホームで準備しているが、家族が持参される場合にはサイズなどわかりやすく伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に牛乳の摂取を勧めたり、甘いものを好まれる方にはスポーツ飲料など、また、冷たいものが苦手な方には温めて提供するなど無理なく飲めるように工夫を心がけている。体操やホール内散歩等声かけし参加してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間はなるべく希望の時間に入れるように調整している。また、入浴拒否が続かれる方には無理強いせず、清拭や更衣などで対応し、気分よく入浴ができるよう援助している。	入浴の回数や時間帯は可能な限り要望に応じており、毎日でも好まれる方もおられるようである。入浴日以外でも汚染時はその都度対応し、不快なく過ごせるようにしている。拒否が続かれる方には、無理強いせず清拭や更衣で対応している。入浴後や皮膚の乾燥が見られるときは、個別に用意したワセリンを湿布している。浴室は窓からの採光もあり気持ちよく入浴できる環境である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり眠れなかった方などには起床時間を遅らせるなどの対応を行い、体調に合わせた支援を行っている。居室にて過ごされる方には、行事やおやつ等声かけし日中ホールにて過ごす時間を作るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書をファイルし内容を確認している。また、処方時には薬剤師からの詳しい説明も聞く事ができ、質問にも応じてもらえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業を好まれる方には新聞折り、洗濯物たたみ等の手伝いをお願いし、歌が好きな方には歌詞カードで好きな時に歌ってもらうなどで気分転換を図っている。自宅で読まれていた新聞を継続して購読されている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症流行の影響により、外出ができないので玄関先での日光浴や駐車場内の散歩などで気分転換してもらっている。	コロナ感染症5類移行後も以前のような外出は控えており、敷地内の散歩でできる限り外気浴もできるようにしている。入居者の中には「散歩に出たい！」と要望される方もおられるようである。玄関先のプランターや花壇への花苗植えは、継続して取り組んでおり、訪問当日も季節の花が開花していた。	自宅への帰省や外食など家族との外出は本人・家族双方が心待ちにされていることと思われる。感染症の終息とそれに代わる楽しみ事を引き続き工夫されることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方にはお小遣いを持ってもらい、紛失などが無いよう、管理している。電話代(10円玉)を持っておられ、事務所の公衆電話にて自由に家族へ連絡ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気兼ねなく会話ができるよう公衆電話が設置しており、自由に使えるようにしてある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者を書いてもらった作品や、行事などの写真の掲示や、季節に合わせた飾りつけなどを行っている。利用者の状況によりソファの配置等検討している。	明るいきりびんぐホールからは、入居者と職員の談笑や歌声が聞こえてくる。また、ホームで購入している地方紙を読まれる方など思い思いに過ごされている。ホーム内は造形が得意な職員を中心に毎月、季節に応じた飾り物や置物など、入居者も一緒に取り組んでいる。今年も正月は手作りの神社やおみくじで初詣参拝が出来ており、外出を控えている現状にあり、入居者も大変喜ばれている。事務所近くには懐かしい公衆電話が置かれており、家族が用意した10円玉で連絡を取られる方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一緒にテレビを観れる場所と、少し離れ少人数で過ごせる場所があり、気分に合わせて、過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使用されていたものを持ってきていただくようお願いしているが、新しいものを持ってこられる場合が多い。居室でゆっくり過ごしていただけるようTVやいすの持ち込みもある。また、家族やお孫さんの写真や絵など持ってこられる場合もあり、都度飾り直し、家族とのつながりを大切にできるよう援助している。	居室への持ち込みについては自宅で使われていた物を持参して欲しい事を家族へ伝え、改めて購入する必要はないことを申し添えている。普段使用しないものや季節外の衣類などは、押入れに収納されており、居室内はスッキリ整頓が出来ている。半窓は障子が備わり、落ち着いた雰囲気の居室には、家族の写真やカレンダーの持ち込み、季節に応じた寝具などの他、テレビを持ち込まれている方は、時代劇や動物が登場する放送を好んでみられるようである。また読みつけの新聞を個人で購入し、居室でゆっくり読まれている。	以前のように面会が出来ない家族にとって居室の様子など気になる点と思われる。今後も家族の心配や気になる点などを聞き取り、個々に応じて対応される事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、各居室など、利用者がよく使用される場所には分かりやすいように掲示し、事故防止のために環境に整備を行っている。		